

高藤「金」



【男子60キ級決勝】台湾の楊勇緯と対戦する高藤直寿—日本武道館

柔道男子60キ級



日本勢で第1号

東京五輪第2日の24日、柔道男子60キ級決勝で高藤直寿(28)＝パーク24＝が楊勇緯(台湾)を接戦の末に破り、日本選手団の金メダル第1号を獲得した。「お家芸」の活躍で、自国開催の祭典のムードが高まった。2013年の世界選手権

を20歳で初制覇した。16年のリオデジャネイロ五輪で金メダルを期待されたが、銅メダルにとどまった。17、18年と再び世界選手権で優勝し、雪辱を期して臨んだ今大会は、鋭い足技を披露し、頂点に立った。

この階級は野村忠宏が1

996年アトランタ五輪から04年アテネ五輪まで3連覇の偉業を達成したが、その後は優勝に届かなかった。ジュニア時代から「天才」と称された男が、聖地の日本武道館で4大会ぶりに王座を奪還した。

支えてもらった結果

高藤直寿の話 本当に、みんなに支えてもらってこの結果があると思う。こーやって開催していただいたおかげ。豪快に勝つことができなかつたけど、これが僕の柔道。金メダリストとして、もっと自分を磨いていきたい。

女子48キ級 渡名喜「銀」

東京五輪第2日の24日、柔道女子48キ級決勝で渡名喜風南(25)＝パーク24＝がディストリア・クラスニチ(コソボ)に敗れて2位だったが、日本選手団第1号メダルを獲得した。冬季大会を含めて日本の通算メダルは500個に達した。